

五年ごとに一つの村規模の人口がなくなる佐渡の過疎化。人口減少の過程で生じる企業経営や生活の「困りごと」は、人口が最後の一人になるまで続いていきます。将来の子どもたちに対しても、充実した佐渡の生活、そして魅力ある雇用機会や起業機会は確保できるのでしょうか。佐渡のエンジンともいえる経済的側面を中心に、地域や産業の課題を四回わたって分析します。

人口減少どう歯止め

40年前の成功体験に注目

三つの計算をしてみたのが図表②です。一つは、全若者が定着した場合です。やは

過疎化

現在の人口構成、生存率、流入入率、そして出生率を将来に伸ばしたのが図表①です。両津商工会の推計では、今後七十年で佐渡の人口が一万人を切ることになります。この歯止めのために、各三百人、合わせて四百

も人口の再生力がないため減少します。

では、増加に転じさせ

るには、どんな状況があ

ればよいのでしょうか。

金若者の定着に加え、毎

年二十一二十四歳の男女

が、こうした地域でも過

疎化は急速に進んでい

る状況です。

一方、これから出産年

性数は、二十年を経て入

れ替わることに、流出に

よって約半数となっています。この現象が、過疎化の大きな要因です。

今から四十年ほど前に

一つの成功体験がありま

した。当時、佐渡観光の

倍増運動、そして農村工

業導入促進法による企

業誘致が相前後して始まり

ました。それまでの佐渡

は、木製品製造業と食料

品製造業を中心で、産業は

弱いといわれておりまし

た。しかし、わずか数年

間で飛躍的な伸びを示

し、これが急激な人口減

少の流れを緩やかにした

と考えられます。今後、

佐渡が行う産業再生への

挑戦、その数値目標とな

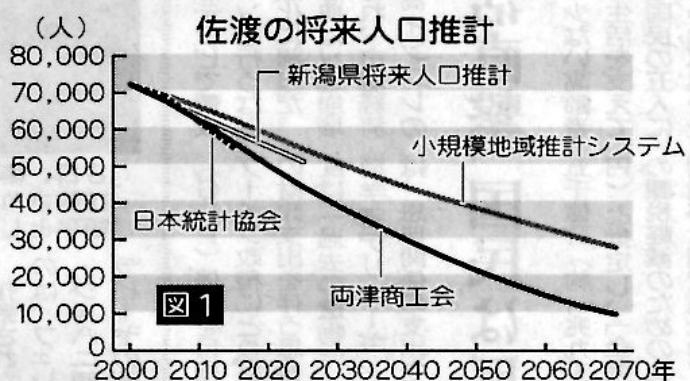
る大きな経験だったとい

えましょう。

岐路にある佐渡

商工会経営指導員研究グループ

>1<



佐渡は、一九九八年に一・〇九人でした。が、現在まで人口は一・八三人まで下降しています。佐渡が行う産業再生への挑戦、その数値目標となる大きな経験だったといえましょう。

再生と縮小

岐路にある佐渡

商工会経営指導員研究グループ

>2<

困り事

このまま過疎化が進むと社会はどうなるのでしょか。佐渡よりも過疎高齢化が進行している全国六十ヶ所を郵送文書で独自に調査しました。「過疎高齢社会で困ることは何ですか?」と質問、これをまとめてみると、次のことが浮き彫りになりました。

その内容が表①です。

特徴は、人口の多少にかかわらず同じような現象が起きていることでしょ

けです。

過疎による生活の困り事、国庫財政の厳しさによ

る困り事など

各種の困り事

集落、地域、組織、企業、そして産業のすべてに、過疎を原因とする困り事が起きました。たとえば、祭礼とか、江ざらいなど、多い人数で行っていたことを少なう。

困り事への対処法の二

かつて、虚札廃止など、日常的な問題を掘り起こして、鷲崎地区の「佐渡海府塞ブリ大漁まつり」の生活を守るために佐渡再生運動が必要です。

このようなコトをおこせる人づくりと、そのグループの育成、それらのネットワーク化が大切なポイントです。

佐渡の市場を拡大するには、攻めに直結する行動が必要でしょう。元気ある地域や頑張る組織といつても、そこには核となるグループの存在があります。実績を上げている例として、鷲崎地区の「佐渡海府塞ブリ大漁まつり」の生活を守るために佐渡再生運動が必要です。

全国の過疎地の困り事 (両津商工会調べ)

- ◆新しいことを始めようという気持ちが人の中から消えていく。
- ◆町内の祭りが全くできない。伝統芸能の継続は無理である。
- ◆畑、森林が荒れ放題。畑は約2分の1以下になっている。
- ◆バス路線が廃止、変更。町営バス運行。
- ◆小中学校の運動会は、まるで保護者の運動会。
- ◆リース契約のトラブルや訪問販売でいらないものを買わされる。
- ◆集落の崩壊が各地で起きている。消防団員の新入生が75歳だった。
- ◆定年後に農業を受け継いでいた形が崩れてきた。
- ◆方々に体育施設など建設した。その管理は一体、誰がするのか。
- ◆地域行事が多すぎる。これがイヤで村を出ていく人も多い。
- ◆数年前に統合した小学校。今、複式学級になろうとしている。
- ◆在宅介護といわれているが高齢の子でどちらが介護者が分からぬ。
- ◆火を使っているのを忘れ、火事になりかけることが多い。
- ◆冠婚葬祭の交際費の負担が多くて大変である。
- ◆昼間は若者を見ることがなかなかできない。

表1

佐渡の活性化体験



図2

市場拡大、攻めの組織育成

えた場合、のです。
観光など
島外からの
来島、そ
して製造業
など島外へ
の出荷、
これらによ
るところから始め、必要
で十分な体制をつくるこ

どこまでも産業や生活には、早め早めの対応でか
不都合なことが起きる」なりの部分が樂になります。ぜひ、過去の成
とを意味します。家庭、す

た。これは、過疎にはゴ
ルではなく、人口が減少
する過程で、少しづつ、
各種の困り事

また、産業面では、起
達です。特に、島外から
の資金流入が特に重要
で十分な体制をつくるこ

とを意味します。

せず、市場は拡大しませ

業創造、そして地域内調
ます。佐渡の自立を考
功体験を生かしたいも

再生と縮小 岐路にある佐渡

商工会経営指導員研究グループ

>3<

縮小に直結してしまいます。そして、建設事業費、補助金、物購入費の削減額は百六十八億円です。こちらは、直接企業の減収となります。

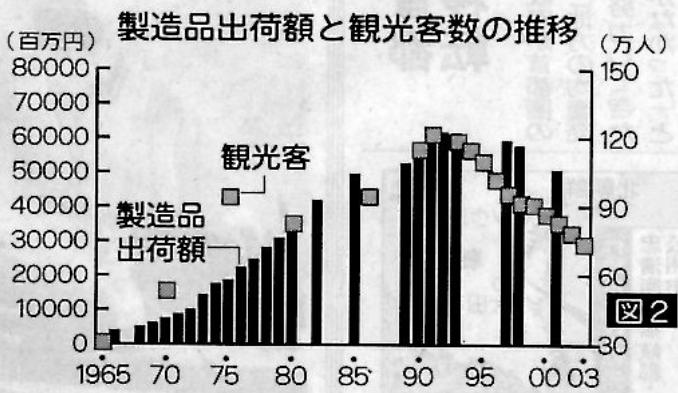
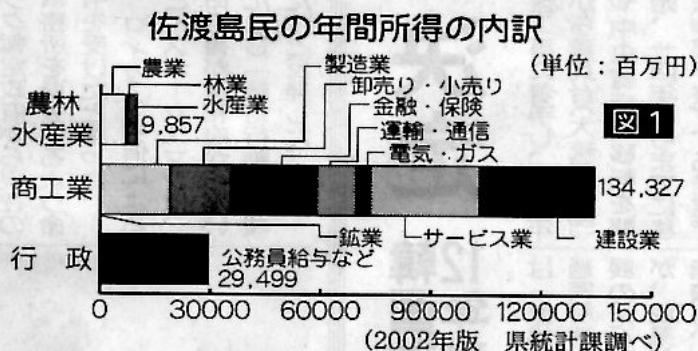
図表2は、佐渡の製造品出荷高と観光客数の推移です。一九七〇年代の観光倍増計画と企業誘致の結果、飛躍的な伸びを示しました。佐渡の活性化体験でした。

産業の行方

経営者の世代交代期、人手による需要の減少をみましょう。県

民の力で経済の再構築を

人口減と合併が直撃



目には見えませんが、お金の流れの大河があります。まず、観光産業、米や魚、そして工業製品などの出荷による収入、交付税や補助金、年金その他の形で島外から流入するお金。そのお金が給料その他の所得になり、生活費として小売業などの売り上げとなる一連の流れです。この流れが、過疎化と合併で大幅に細るうとしています。

図表1のよう、島民人口推計によると、島民の減少見込み所の源の70%以上は商工業が生み出しています。建設業および行政支出の割合が高いことも分かります。この商工業が以下に示すように、大きく乗じてみます。その額は減は、他方の事業機会の九人に、家計

調査による一人当たり家計支出百十八万七千円を島国では、一方の経費削り起業実態などを考えるいわゆる「官」の再構

の大きな挑戦が必要となる「民」による佐渡経済の再構築へ

落。今度は、国や県による財政支援も縮小する市場の立て直しと佐渡自立のため、イクルにある佐渡経済、

されます。佐渡再生の要となる産業再生。私たちは今、その岐路に立っています。

再生と縮小

岐路にある佐渡

商工会経営指導員研究グループ

>4<

抜本対策

国勢調査によれば、佐渡で高齢者いる世帯は約60%。高齢者だけの世帯は約23%です。表①で、その高齢者が、生活や買物で困ることの調査結果を示しました。調査対象となつた約百九十人は、同じような困りごとを訴えています。

新たなる産業の創造を

今後10年の取り組みが鍵

また、高齢化社会は、働く人たちによる経済活動が行われています。この仕事など、若者や健

康な人たちに負担がかからず、地域の元気よさを示す祭礼行事やイベン

ト。少なくとも島内で

役所、旧町村役場のウ

ートは大きく、一つの産

業であつたといつても過

べば、地域の元気よ

うことで、その流れを変え

るでしょ。

建設業や小売業などの売

り上げに直接寄与する金

言ではありません。

この金額が、合併に伴

う経費削減によって大き

く減少。そして、調達先

や調達方法が変更される

ことで、その流れを変え

るでしょ。

地域経済の再構築。私

たちは今、その出発点に

立っています。

地域も経営。今日の經

営は、その進む方向の重

要性から、『戦略七割』と

いわれます。経営として

この流れを大切にし、

この流れを大切にし、